

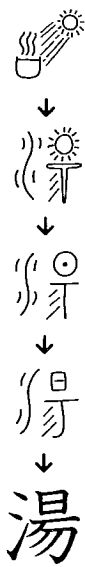
湯

三年

画数 12
筆順
オン トウ
クン ユ

湯 湯 湯

成り立ち



日が空高く上って、日光がふりそそぐことをあらわした「易」と、水のいみをあらわした「水」とを組み合わせた字で、「日の光であたためられた水」、つまり「ゆ」をあらわした字です。

むかしは、火をおこすことがたいへんでしたから、日の光をりようしたことが、「湯」という字でよくわかりますね。

「丁(年332)」は、釘の形をあらわした字ですが、ここでは、チヨウ(なまると、ヨウ、トウとなる)という音をあらわすしとしてつかわれています。

使い方

▼わたしの家では、太陽熱を利用して、お湯をわかしています。お風呂や暖房に、太陽の熱を利用するのです。たいへん便利です。

▼ぼくのおとうさんは、夜ねる前に、お湯を飲みます。お湯を飲むと、よく眠れるのだそうです。お茶だと、目がさえて寝つきが悪いそうです。

熟語例

▼熱湯(にえたった熱いお湯。「インスタントラーメンに熱湯をそぐと、三分で、食べられるようになります」などというふうには、つかいません。)

▼微温湯(ぬるま湯。ぬるいお湯のことです。「この薬は微温湯にて、服用すること」などというふうには、つかいません。)

▼薬湯(薬の入ったお風呂。または、病気をなおすためのせんじ薬)

▼湯治(温泉に入って、病気やけがをなおすこと。「有馬の湯が湯治に良いそうだ」などというふうには、つかいません。)

使い方

▼ぼくは、ふじ山に登ったことがあります。まだ小さい時だったので、歩いては登れず、バスで登りました。下りは、歩いておりました。

▼いもうとは、おてんばで、小さいころ、よく木に登っておとうさんにしかられました。

熟語例

▼登山(山に登ること。「ぼくのおにいさんは登山が大好きです。大きなにもつをかついで、あちこちの山に登ります」などというふうには、つかいません。)

▼登校(学校へ行くこと。Ⓢ「下校」。「登校・下校のさいには、車にちゅういしまししょう」などというふうには、つかいません。)

▼登場(ぶたいなどにあらわれること。「「ごんぎつね」に登場するのは、きつねのごんと、兵十です」などというふうには、つかいません。)

▼登録(ちようばに登せて記録すること。)

▼登龍門(出世などをするためのかん門。そこをこえたこいが龍になるという、中国のでんせつにもとづいたことば)

登

三年

画数 12
筆順
オン トウ
クン のぼる

登 登 登

成り立ち



足のうらの形をあらわした「止」と「山」とを左右にならべた形の「𡵓」と、かみにそなえる「高つき」の形をあらわした「豆」とを組み合わせて作った字です。

高つきは、「高いところにのぼせる」ものです。「そろえた足を、高いところにのぼせる」ことをあらわしたもので、「のぼる」ことをあらわした字です。

高いところに「のぼる」こと。
高いところに「のせる」といういみにもつかいます。また、「ちようばに「のせる」といういみにもつかいます。